

第5章 県民の価値観等

前章までに、生活の状態についての認識や、そこから生じるニーズの把握及び、政策優先度や沖縄の振興方策についてみてきたが、本章では、これらの意識の背景にある県民の価値観等についてみていく。

1 県民の価値観

県民の価値観を測るため、対立する2つの考え方についてそれぞれどちらに最も近いかを尋ねた(問4)。

「仕事と余暇」については、「いつでも仕事を優先させる」の側を回答した「仕事派」が47.6%であったのに対し、「休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない」に「近い」あるいは「どちらかといえれば近い」という「余暇派」が46.9%となっている。全体としては「仕事派」がやや多くなっているが「近い」と回答した割合についてみると、「余暇派」(20.2%)が「仕事派」(17.4%)を2.8ポイント上回っており、内容においては「余暇派」がやや優勢といえる。

「精神的豊かさ」と物質的豊かさ」では、「精神的豊かさ」が大切と回答した割合は80.1%にのぼっており、大多数の県民が「物質的な豊かさ」より「精神的豊かさ」を大切であると捉えている。

「女性の職場進出と家事専念」については、「女性の職場進出派」が「家事専念派」を7.8ポイント上回っている。さらに、「女性の登用」では、「能力ある女性は積極的に登用すべき」とする割合が78.2%となっており、女性が職場で働き、なおかつその能力によっては責任ある立場につくべきだという考え方が強まってきていることを示している。

「自然の開発と保護」については、76.5%が「多少不便でも自然を守ることは大切」としており、「多少自然を破壊しても開発を進めることは大切である」(18.2%)とする割合を大きく上回り、意識の上では生活の利便性を多少の犠牲にしても自然を保護すべきであるという考え方が大勢を占めている。

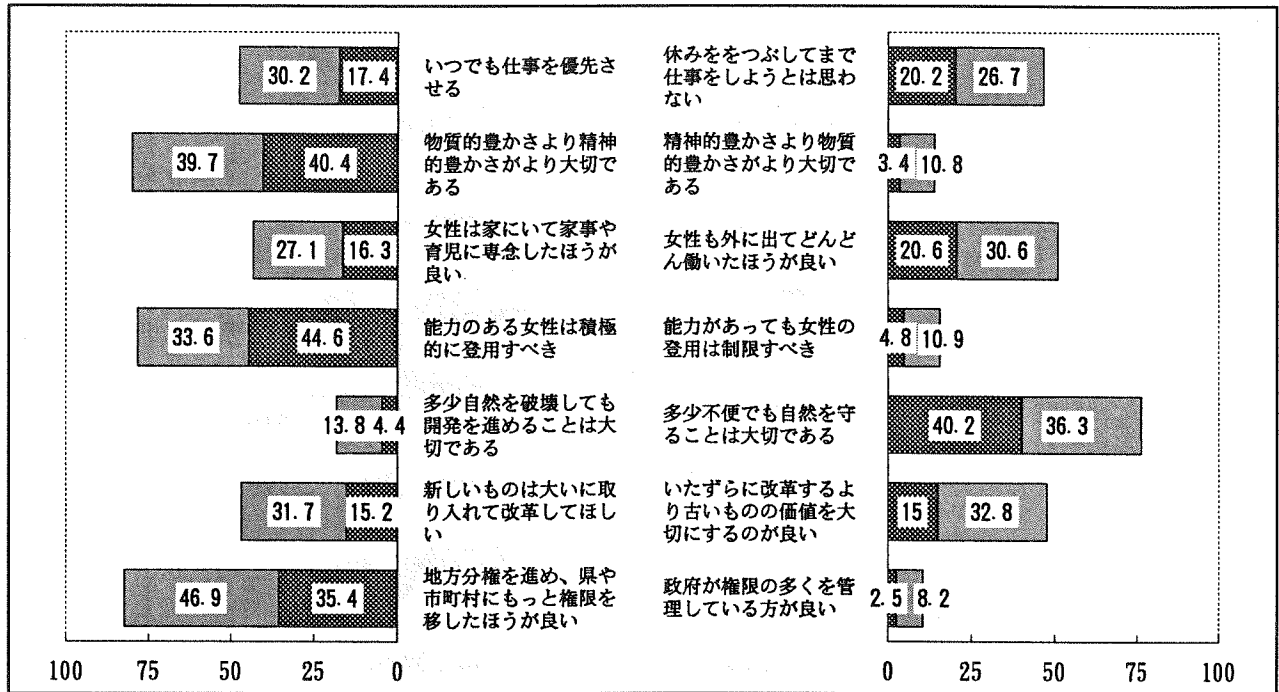
「改革と保守」では、「新しいものを大いに取り入れてほしい」という「改革派」(46.9%)と「いたずらに改革するよりも古いものの価値を大切にするのがよい」という「保守派」(47.8%)は、ほぼ同率となっている。

「地方分権と中央集権」では、82.3%が「地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移した方がよい」としており、最近の「地方の時代」という考え方が、県民に広く定着していることがわかる(図5-1-1)。

以下、それぞれの価値観ごとに、男女別、年齢階級別等の属性による違いについてみていく。

図5-1-1 県民の価値観（県計）

（単位：％）



(1) 「仕事と余暇」

「仕事と余暇」に対する考え方については、属性によって大きな違いがみられた。特に「年齢階級別」、「地域別」、「所得別」でその差が大きくなっている（図5-1-2）。

「年齢階級別」では、「仕事を優先させる」とする割合は「50～59歳」で最も高く、それを境に年齢が上下に離れるに従い「仕事優先」の傾向が弱まり、「30～39歳」以下の年齢層においては、過半数が余暇を優先するとしている。「50～59歳」という年齢層は、責任ある立場についている者の割合が相対的に高いと考えられ、その立場や、それによる充実感等が仕事の優先度を押し上げている面もあると思われる。

「地域別」では、「仕事を優先させる」割合は、那覇市で53.7%と最も高く、離島など都市部から離れるに従って徐々に低くなっている。

「世帯の年間収入別」では、所得が増すにつれて仕事を優先させる傾向が若干みられる。これには、高所得者ほど報酬が労働の見返りであることを実感しやすいこと等による影響があるものと思われる。

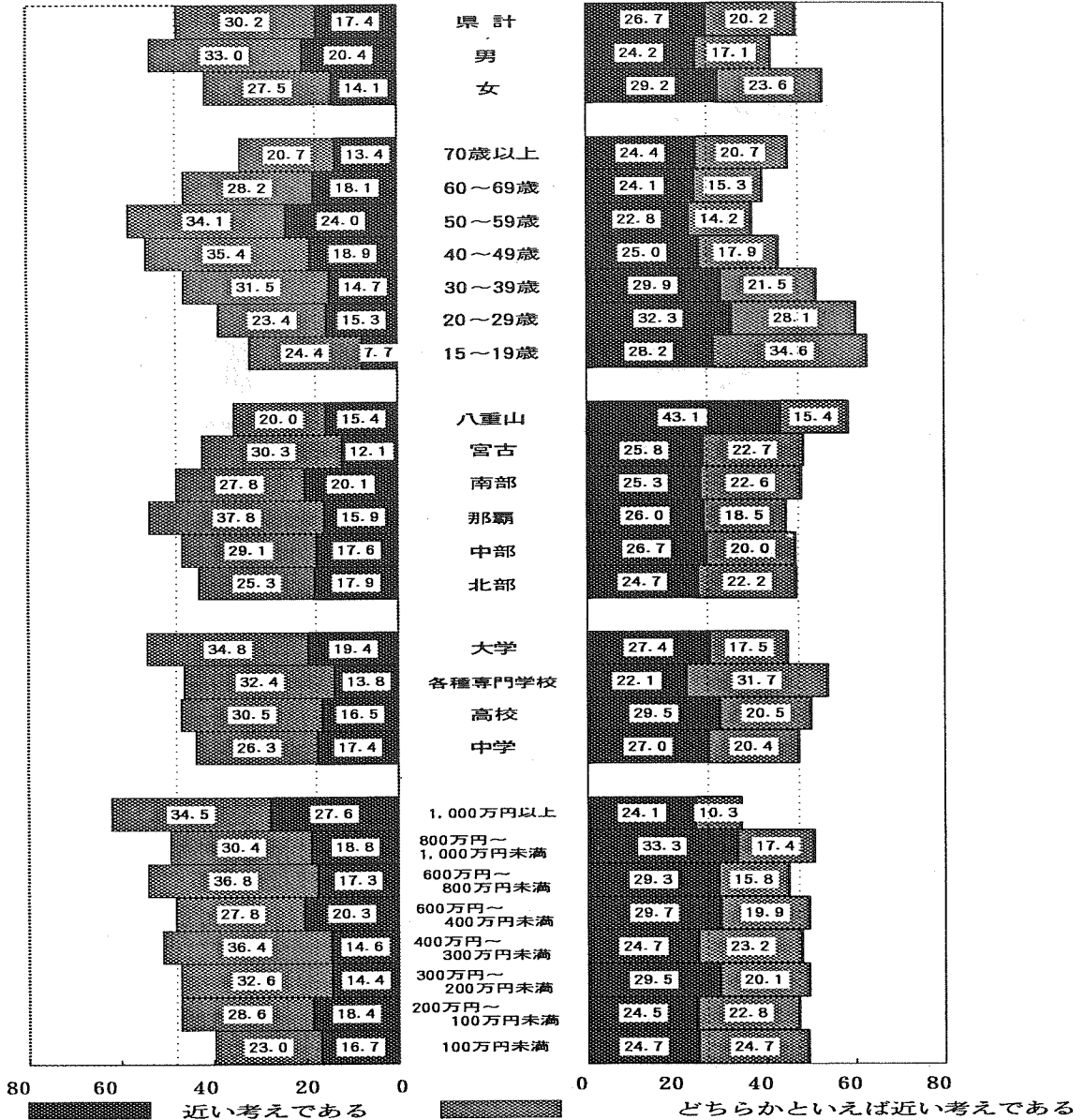
また、「性別」では、男性の方が女性よりも仕事を優先する傾向にあるが、これは、女性が余暇よりも仕事を軽視しているというわけではなく、仕事優先の傾向の強い中年層における女性の労働人口が相対的に低いことや、仕事内容の重要度等による影響があるものと考えられる。

図5-1-2 仕事と余暇に対する価値観

単位：%

いつでも仕事を優先させる

休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない



(2) 「精神的豊かさと物質的豊かさ」

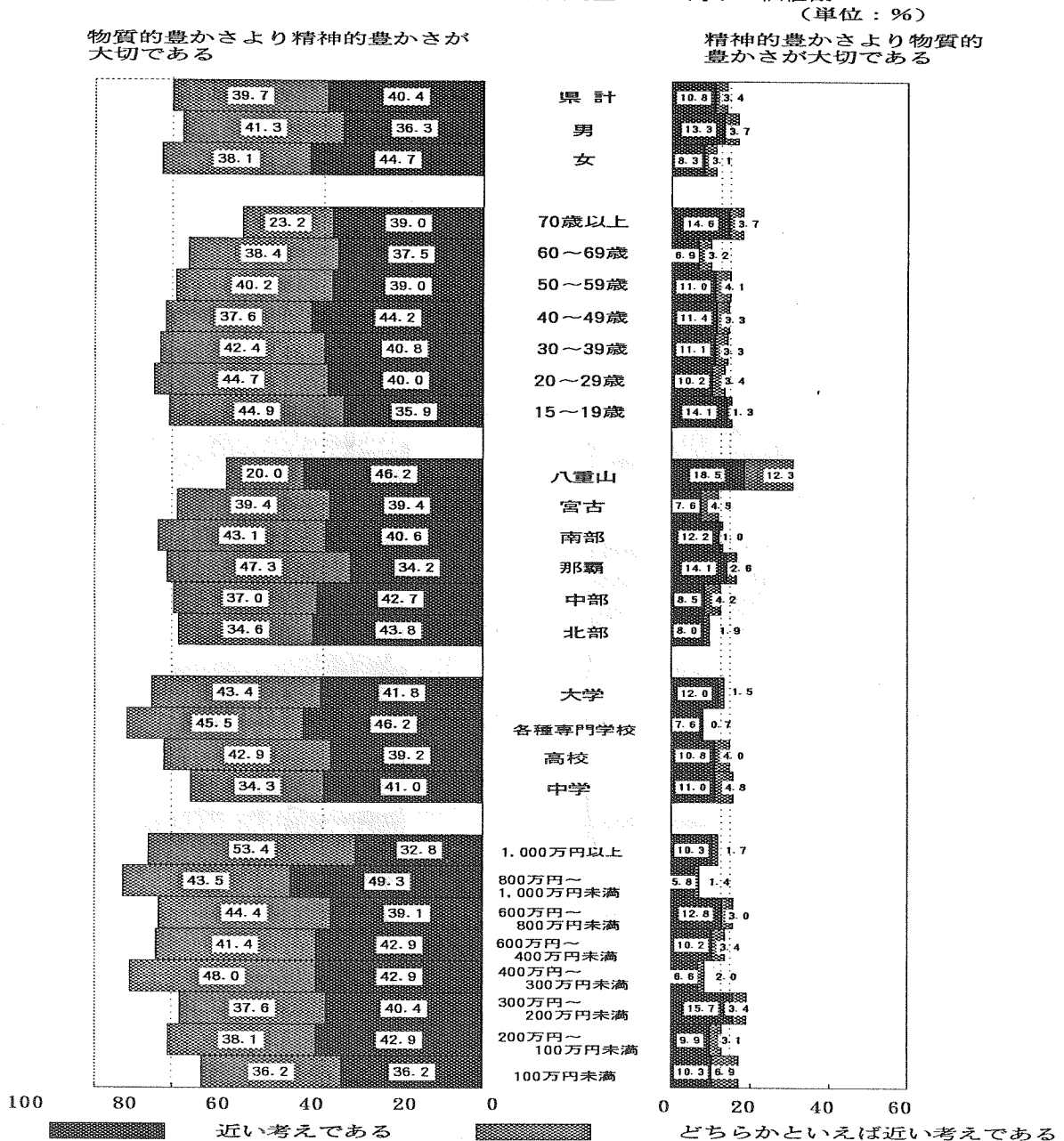
「精神的豊かさと物質的豊かさ」のいずれが大切であるかという問に対しては、すべての属性や階級において、「物質的豊かさより精神的豊かさが大切である」とする意見が強く表れている（図5-1-3）。

「年齢階級別」では、「20～29歳」で「精神的豊かさを重視」の回答割合が84.7%と最も高く、年齢層が上がるに従ってその割合は低くなり、「70歳以上」では62.2%にとどまっている。

「世帯の年間収入別」では、階層によって多少ばらつきがあるものの、比較的物質的な欲求が満たされやすい高所得者ほど「精神的豊かさを重視する」傾向が若干みられる。

次に「学歴別」であるが、最終学歴が高いほど精神的豊かさを重視する傾向がある。これには、学歴からうける価値観の形成による影響に加え、最終学歴が低い層には相対的に年齢の高い者が多く含まれていることも影響しているものと考えられる。

図5-1-3 精神的豊かさと物質的豊かさに対する価値観



(3) 「女性の社会進出と家事専念」

「女性は家にいて家事や育児に専念した方がよい」と「女性も外に出てどんどん働いた方がよい」のいずれの考え方を支持するかを選択してもらった(図5-1-4)。

県全体としては「女性の社会進出」を支持する意見が、「女性の家事専念」支持を7.8ポイント上回った。しかしながら、属性、階級によっては、「女性の家事専念」を支持する意見が若干上回るなど、

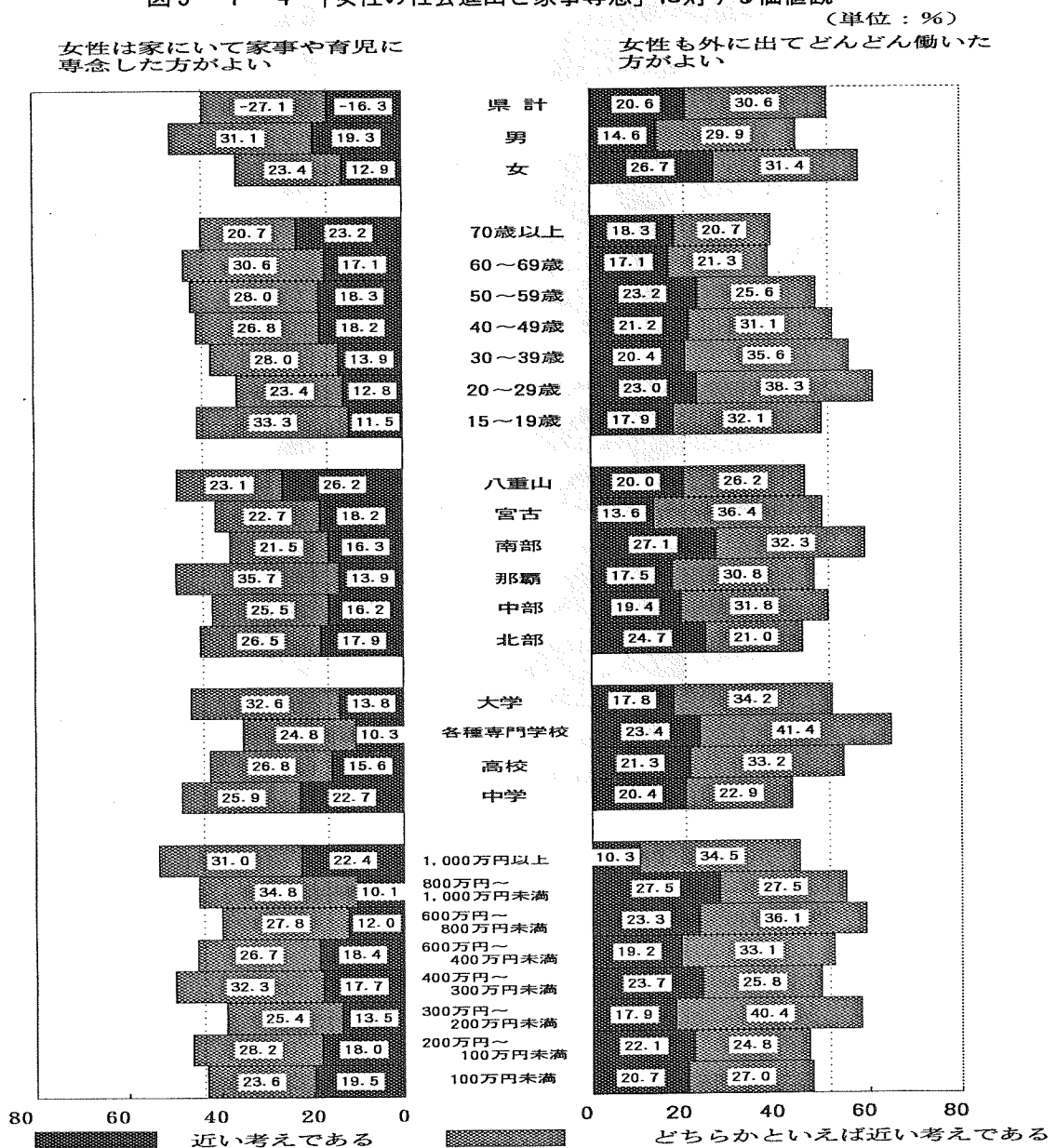
価値観の多様さが顕著に表れる項目となった。本項目において、価値観の差が大きく表れたのは、「性別」、「学歴別」、「年齢階級別」でみた場合である。

「性別」では、女性の6割近くが「女性も外に出てどんどん働いた方がよい」という考えを持っているのに対し、男性は44.5%にとどまっている。

「学歴別」では、「各種専門学校」までは学歴が高くなるにつれ、女性の社会進出を支持する意見が強くなる傾向があるが、「大学」はその傾向からはずれており、県全体と比較した場合でも、「女性は家にいて家事やに専念した方がよい」とする割合が若干高くなっている。

「年齢階級別」では、「女性の社会進出」を支持する回答割合が「20～29歳」で61.3%と最も高く、年齢階級が上がるにつれ、その割合が減少する傾向がみられ、60歳以上において「女性の社会進出」を支持する割合は4割を切り、「女性の家事専念」を支持する意見が上回った。一方、「15～19歳」層でも、「女性の社会進出」を支持する割合は50%にとどまっているが、これらの年齢層には相対的に就労経験者が少なく、それが女性の労働環境に対する認識に影響を与えている面もあると考えられる。

図5-1-4 「女性の社会進出と家事専念」に対する価値観



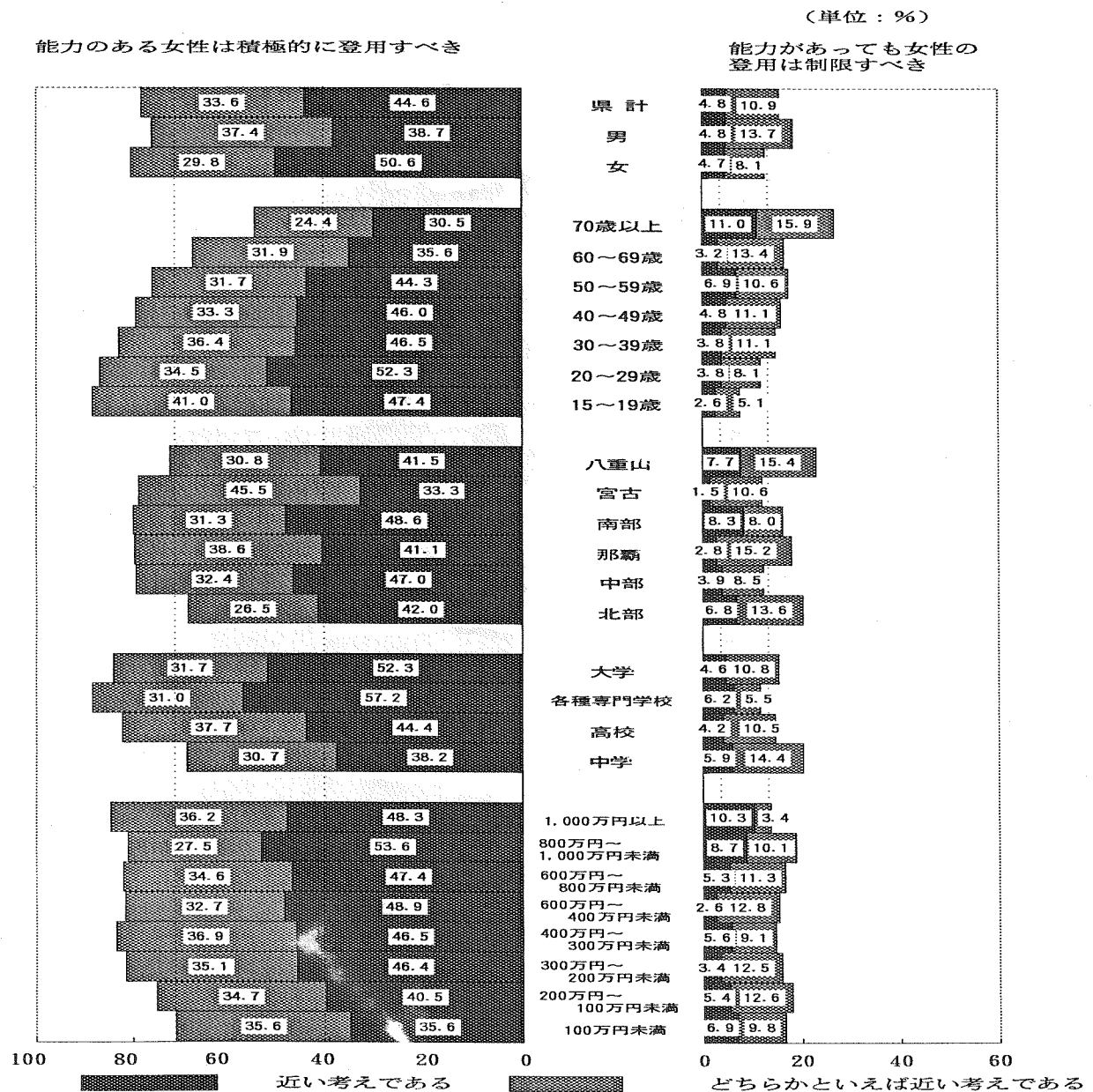
(4) 「女性の登用」

「女性の登用」については、「能力のある女性は積極的に登用すべき」と考える者が全体の78.2%を占めている。また、属性別では、「性別」、「世帯収入別」、「地域別」で、比較的一致した見解がみられたが、「年齢階級別」、「学歴別」においては、階級間で違いがみられた(図5-1-5)。

「年齢階級別」では、年齢層が高くなるのに伴い、「女性の登用」を支持する割合が急激に低くなる傾向がみられ、高年齢層ほど、女性よりも男性を重んずる封建的な思想の影響を受けているものと考えられる。

「学歴別」では、最終学歴が高いほど「女性の登用」を支持する傾向がある。これには、学歴からうける価値観の形成による影響に加え、最終学歴が低い層には相対的に年齢の高い者が多く含まれていることも影響しているものと考えられる。

図5-1-5 「女性の登用」に対する価値観



(5) 「開発と自然の保護」

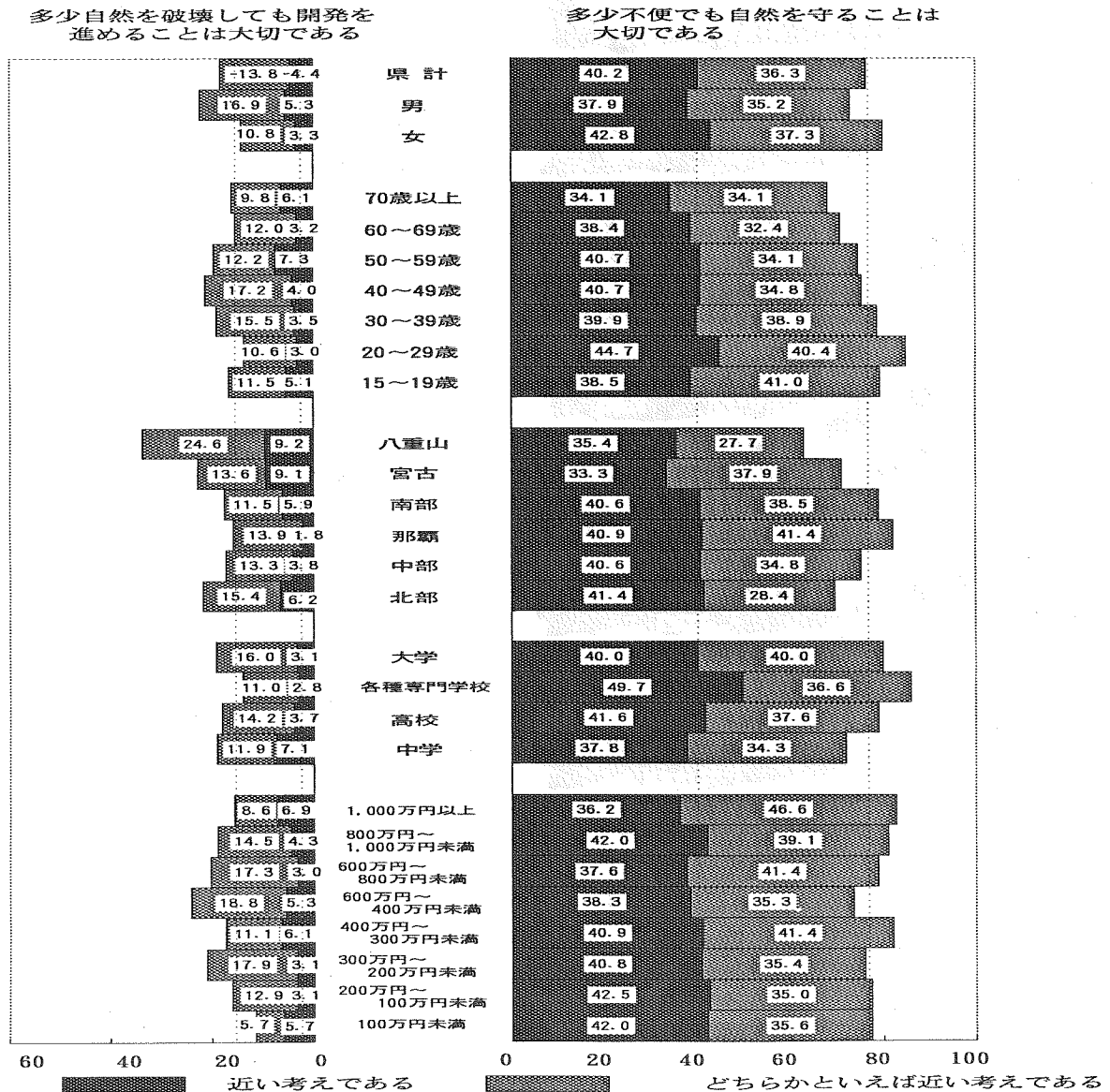
「多少自然を破壊しても開発をすすめることは大切である」と「多少不便でも自然を守ることは大切である」のどちらの考え方を支持するかを選択してもらった(図5-1-6)。

県全体としては、「自然保護」を優先すべきと回答する割合が76.5%を占めている。属性別にみると「性別」では男性が「開発促進」を支持する割合が高くなっているのに対して、「自然保護」を支持する割合は女性の方が上回っている。「世帯所得別」ではいずれの属性、階級においても比較的一致した見解となったが、「地域別」、「年齢階級別」においては差がみられる。

「地域別」では、「那覇」で「自然保護」を支持する割合が82.3%と最も高く、都市部から離れ周辺地域になるに従ってその考え方は弱まり、「八重山地域」においては63.1%にとどまっている。特に、「八重山地域」では、「開発推進」を支持する割合が、他地域より突出して高くなっており、都市部から離れた地域に住む人々の、生活環境の開発に対する希望の強さがうかがわれる。

「年齢階級別」では、若年層で「自然保護」を支持する考えが強く、特に「20~29歳」で85.1%と最も高くなっており、年齢層の上昇に従って、「自然保護」の回答割合は比較的低くなっている。

図5-1-6 「自然の開発と保護」に対する価値観 (単位：%)



(6) 「改革と保守」

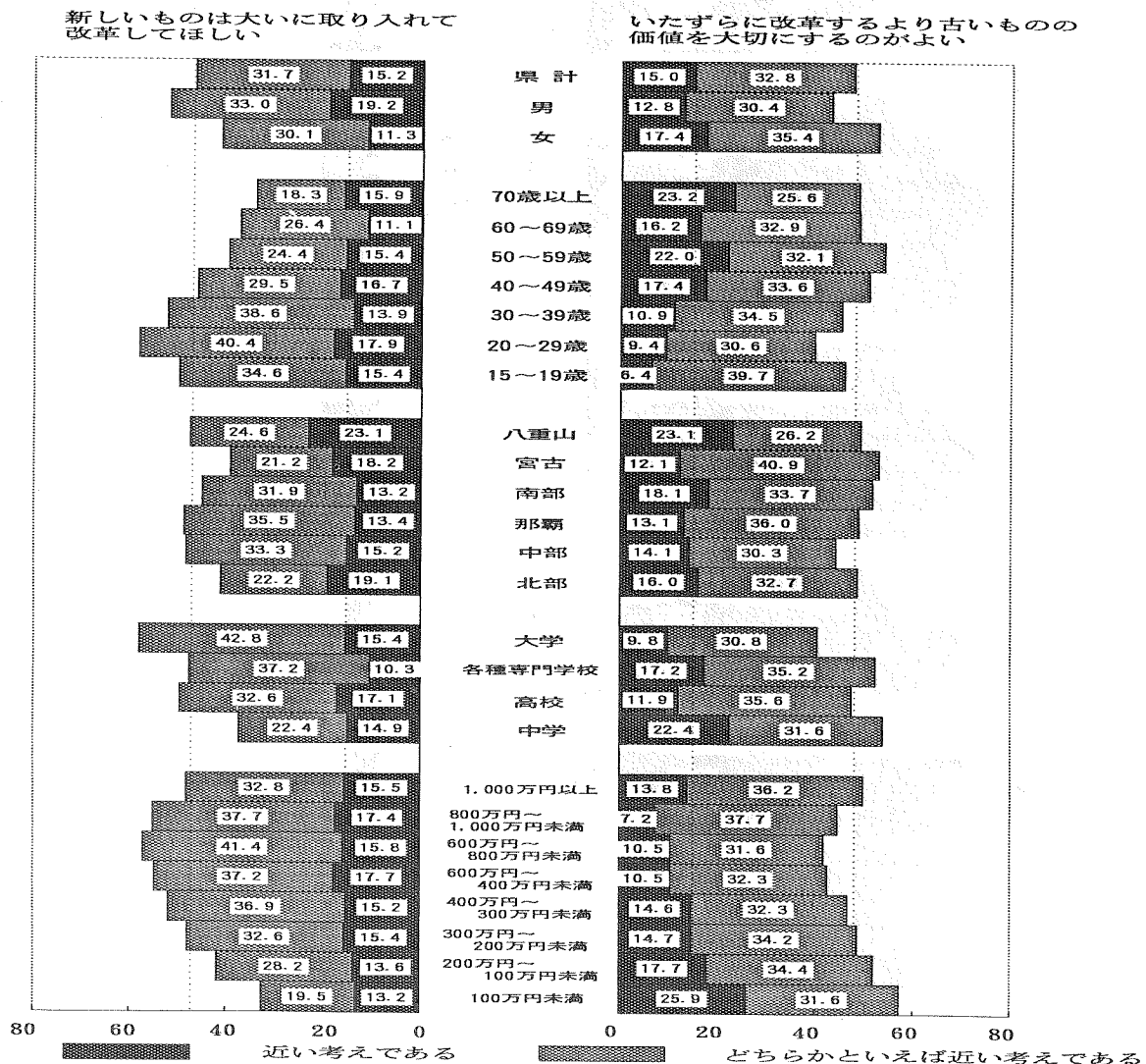
「新しいものは大いに取り入れて改革してほしい」と「いたずらに改革するより古いものの価値を大切にするのがよい」のいずれかを選択してもらった(図5-1-7)。県全体としては、前者が46.9%、後者が47.8%とほぼ等しく意見が分かれた形となったが、各属性で価値観の大きな差がみられた。

「性別」では、男性の「改革」を支持する割合(52.2%)は女性(41.4%)を11.1ポイント上回り、逆に「保守」を支持する割合においては女性(52.8%)が男性(43.2%)を9.6ポイント上回っている。

「年齢階級別」では、「20~29歳」で「改革」を支持する者(58.3%)が「保守」的な意見を支持する者を18.3ポイントと大きく上回っているが、年齢層が上がるに伴い「改革」を支持する意識が弱まり、「保守」的になる傾向がみられ、40歳以上においては「保守」が「改革」を上回っている。また、「15~19歳」は30代と40代の中間的な値を示しており、この年齢層は親の保護の下にある者が相対的に多く、社会生活に対する実感に乏しいことも影響しているものと思われる。

「世帯収入別」では、「600~800万円未満」の所得層で最も「改革」を支持する割合が高く(57.2%)、それを境に所得が増加するにつれ、あるいは所得が減少するのに伴い、「改革」を支持する者の割合が減り、「保守」的な考えを支持する割合が増加している。特に、世帯収入が「1,000万円以上」と、「300万円以下」においては、「保守」的な意見が「改革」のそれを上回る結果となった。

図5-1-7 「改革と保守」に対する価値観 (単位：%)



(7) 「地方分権と中央集権」

「政権の所在」を「地方」と「中央」のいずれにおくべきか選択してもらったところ、県全体では、82.3%の人が地方分権をそのあるべき姿として捉えている（図5-1-8）。

本項目においては、「年齢階級別」、「学歴別」、「世帯収入別」でみた場合に価値観の差が大きく表れ、「性別」では考え方にほとんど差が見られなかった。

「年齢階級別」では、「20～29歳」で最も「地方分権」を支持する割合が高く（88.5%）、年齢階級が上がるのに伴いその割合は低くなっている。また、「70歳以上」で、「中央集権」を支持する者の割合が突出している（18.3%）のも特徴的である。

「学歴別」では、「大学」で「地方分権」を支持する割合が最も高く、学歴が低くなるにつれてその意識が弱まる傾向がみられる。

「世帯収入別」では、収入が大きいほど「地方分権」を支持する割合が高く、「800万円以上」の所得層では9割以上にのぼっている。

図5-1-8 「地方分権と中央集権」に対する価値観

単位：%

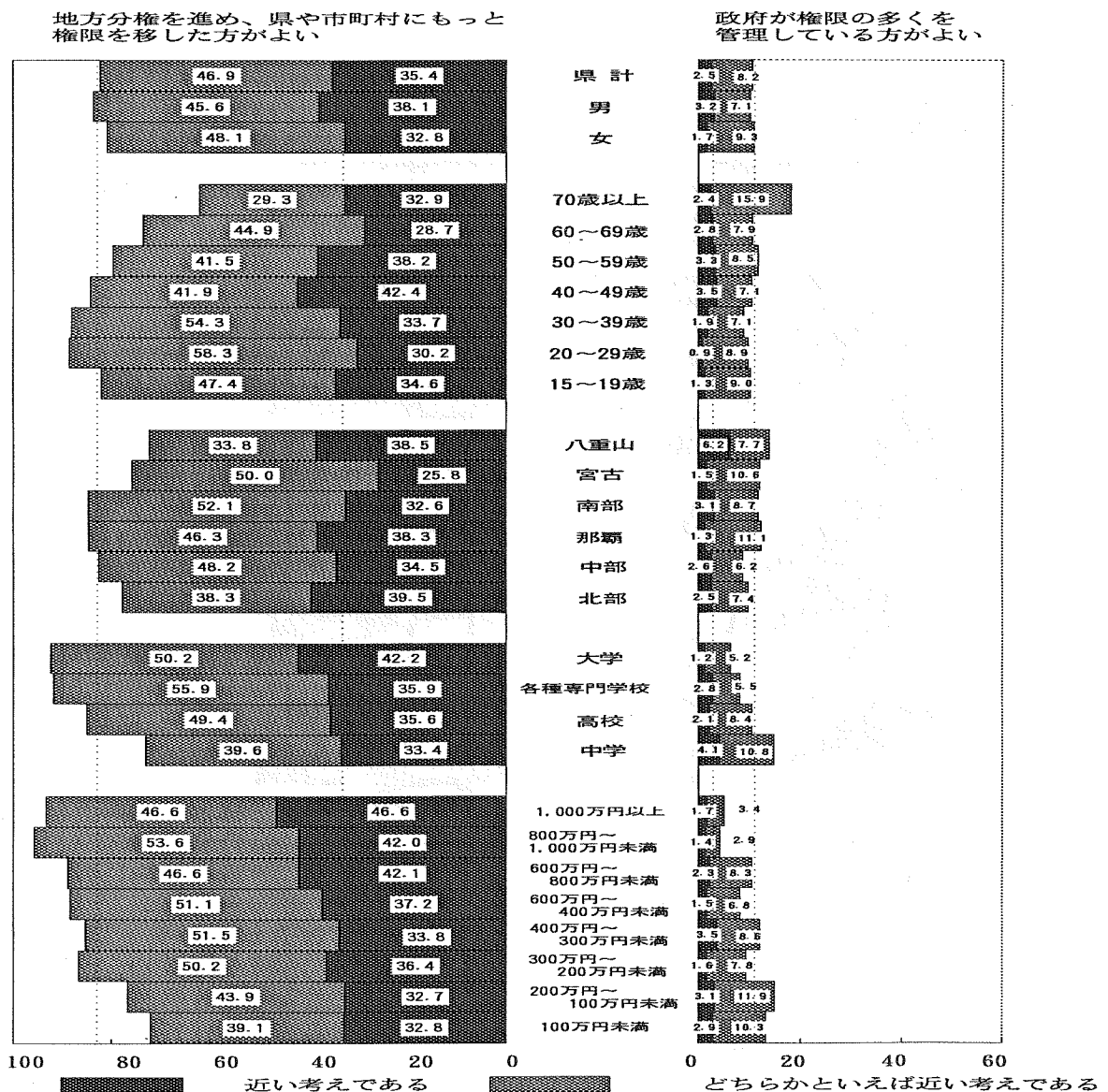


表5-1-1 県民の価値観

単位：%

		県計		年齢								地域					
		男	女	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山	
いつでも仕事を優先させる	近い考えである	17.4	20.4	14.1	7.7	15.3	14.7	18.9	24.0	18.1	13.4	17.9	17.6	15.9	20.1	12.1	15.4
	どちらかといえば近い考えである	30.2	33.0	27.5	24.4	23.4	31.5	35.4	34.1	28.2	20.7	25.3	29.1	37.8	27.8	30.3	20.0
休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない	近い考えである	20.2	17.1	23.6	34.6	28.1	21.5	17.9	14.2	15.3	20.7	22.2	20.0	18.5	22.6	22.7	15.4
	どちらかといえば近い考えである	26.7	24.2	29.2	28.2	32.3	29.9	25.0	22.8	24.1	24.4	24.7	26.7	26.0	25.3	25.8	43.1
無回答		5.5	5.3	5.6	5.1	0.9	2.4	2.8	4.9	14.4	20.7	9.9	6.7	1.8	4.2	9.1	6.2
物質的豊かさより精神的豊かさが大切である	近い考えである	40.4	36.3	44.7	35.9	40.0	40.8	44.2	39.0	37.5	39.0	43.8	42.7	34.2	40.6	39.4	46.2
	どちらかといえば近い考えである	39.7	41.3	38.1	44.9	44.7	42.4	37.6	40.2	38.4	23.2	34.6	37.0	47.3	43.1	39.4	20.0
精神的豊かさより物質的豊かさが大切である	近い考えである	3.4	3.7	3.1	1.3	3.4	3.3	3.3	4.1	3.2	3.7	1.9	4.2	2.6	1.0	4.5	12.3
	どちらかといえば近い考えである	10.8	13.3	8.3	14.1	10.2	11.1	11.4	11.0	6.9	14.6	8.0	8.5	14.1	12.2	7.6	18.5
無回答		5.7	5.4	5.8	3.8	1.7	2.4	3.5	5.7	13.9	19.5	11.7	7.6	1.8	3.1	9.1	3.1
女性は家において家事や育児に専念した方がよい	近い考えである	16.3	19.3	12.9	11.5	12.8	13.9	18.2	18.3	17.1	23.2	17.9	16.2	13.9	16.3	18.2	26.2
	どちらかといえば近い考えである	27.1	31.1	23.4	33.3	23.4	28.0	26.8	28.0	30.6	20.7	26.5	25.5	35.7	21.5	22.7	23.1
女性も外に出てとんとん働いた方がよい	近い考えである	20.6	14.6	26.7	17.9	23.0	20.4	21.2	23.2	17.1	18.3	24.7	19.4	17.5	27.1	13.6	20.0
	どちらかといえば近い考えである	30.6	29.9	31.4	32.1	38.3	35.6	31.1	25.6	21.3	20.7	21.0	31.8	30.8	32.3	36.4	26.2
無回答		5.4	5.0	5.6	5.1	2.6	2.2	2.8	4.9	13.9	17.1	9.9	7.1	2.1	2.8	9.1	4.6
能力のある女性は積極的に登用すべき	近い考えである	44.6	38.7	50.6	47.4	52.3	46.5	46.0	44.3	35.6	30.5	42.0	47.0	41.1	48.6	33.3	41.5
	どちらかといえば近い考えである	33.6	37.4	29.8	41.0	34.5	36.4	33.3	31.7	31.9	24.4	26.5	32.4	38.6	31.3	45.5	30.8
能力があっても女性の登用は制限すべき	近い考えである	4.8	4.8	4.7	2.6	3.8	3.8	4.8	6.9	3.2	11.0	6.8	3.9	2.8	8.3	1.5	7.7
	どちらかといえば近い考えである	10.9	13.7	8.1	5.1	8.1	11.1	11.1	10.6	13.4	15.9	13.6	8.5	15.2	8.0	10.6	15.4
無回答		6.1	5.4	6.8	3.8	1.3	2.2	4.8	6.5	15.7	18.3	11.1	8.2	2.3	3.8	9.1	4.6
多少自然を破壊しても開発を進めることは大切である	近い考えである	4.4	5.3	3.3	5.1	3.0	3.5	4.0	7.3	3.2	6.1	6.2	3.8	1.8	5.9	9.1	9.2
	どちらかといえば近い考えである	13.8	16.9	10.8	11.5	10.6	15.5	17.2	12.2	12.0	9.8	15.4	13.3	13.9	11.5	13.6	24.6
多少不便でも自然を守ることは大切である	近い考えである	40.2	37.9	42.8	38.5	44.7	39.9	40.7	40.7	38.4	34.1	41.4	40.6	40.9	40.6	33.3	35.4
	どちらかといえば近い考えである	36.3	35.2	37.3	41.0	40.4	38.9	34.8	34.1	32.4	34.1	28.4	34.8	41.4	38.5	37.9	27.7
無回答		5.3	4.8	5.7	3.8	1.3	2.2	3.3	5.7	13.9	15.9	8.6	7.4	2.1	3.5	6.1	3.1
新しいものは大いに取り入れて改革してほしい	近い考えである	15.2	19.2	11.3	15.4	17.9	13.9	16.7	15.4	11.1	15.9	19.1	15.2	13.4	13.2	18.2	23.1
	どちらかといえば近い考えである	31.7	33.0	30.1	34.6	40.4	38.6	29.5	24.4	26.4	18.3	22.2	33.3	35.5	31.9	21.2	24.6
いたずらに改革するよりも古いものの価値を大切にするのがよい	近い考えである	15.0	12.8	17.4	6.4	9.4	10.9	17.4	22.0	16.2	23.2	16.0	14.1	13.1	18.1	12.1	23.1
	どちらかといえば近い考えである	32.8	30.4	35.4	39.7	30.6	34.5	33.6	32.1	32.9	25.6	32.7	30.3	36.0	33.7	40.9	26.2
無回答		5.3	4.7	5.8	3.8	1.7	2.2	2.8	6.1	13.4	17.1	9.9	7.1	2.1	3.1	7.6	3.1
地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移した方がよい	近い考えである	35.4	38.1	32.8	34.6	30.2	33.7	42.4	38.2	28.7	32.9	39.5	34.5	38.3	32.6	25.8	38.5
	どちらかといえば近い考えである	46.4	45.6	48.1	47.4	58.3	54.3	41.9	41.5	44.9	29.3	38.3	48.2	46.3	52.1	50.0	33.8
政府が権限の多くを管理している方がよい	近い考えである	2.5	3.2	1.7	1.3	0.9	1.9	3.5	3.3	2.8	2.4	2.5	2.6	1.3	3.1	1.5	6.2
	どちらかといえば近い考えである	8.2	7.1	9.3	9.0	8.9	7.1	7.1	8.5	7.9	15.9	7.4	6.2	11.1	8.7	10.6	7.7
無回答		7.0	5.9	8.1	7.7	1.7	3.0	5.1	8.5	15.7	19.5	12.3	8.5	3.1	3.5	12.1	13.8

表5-1-1 県民の価値観(続き)

単位: %

		学歴					所得							
		中学校	高等学校	各種専門学校	大学	その他	100万円未満	100~200万円	200~300万円	300~400万円	400~600万円	600~800万円	800~1000万円	1000万円以上
いつでも仕事を優先させる	近い考えである	17.4	16.5	13.8	19.4	14.7	16.7	18.4	14.4	14.6	20.3	17.3	18.8	27.6
	どちらかといえば近い考えである	26.3	30.5	32.4	34.8	50.0	23.0	28.6	32.6	36.4	27.8	36.8	30.4	34.5
休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない	近い考えである	20.4	20.5	31.7	17.5	14.7	24.7	22.8	20.1	23.2	19.9	15.8	17.4	10.3
	どちらかといえば近い考えである	27.0	29.5	22.1	27.4	14.7	24.7	24.5	29.5	24.7	29.7	29.3	33.3	24.1
無回答		8.9	3.1	0.0	0.9	5.9	10.9	5.8	3.4	1.0	2.3	0.8	0.0	3.4
物質的豊かさより精神的豊かさが大切である	近い考えである	41.0	39.2	46.2	41.8	41.2	36.2	42.9	40.4	42.9	42.9	39.1	49.3	32.8
	どちらかといえば近い考えである	34.3	42.9	45.5	43.4	35.3	36.2	38.1	37.6	48.0	41.4	44.4	43.5	53.4
精神的豊かさより物質的豊かさが大切である	近い考えである	4.8	4.0	0.7	1.5	2.9	6.9	3.1	3.4	2.0	3.4	3.0	1.4	1.7
	どちらかといえば近い考えである	11.0	10.8	7.6	12.0	17.6	10.3	9.9	15.7	6.6	10.2	12.8	5.8	10.3
無回答		8.9	3.1	0.0	1.2	2.9	10.3	6.1	2.8	0.5	2.3	0.8	0.0	1.7
女性は家において家事や育児に専念した方がよい	近い考えである	22.7	15.6	10.3	13.8	11.8	19.5	18.0	13.5	17.7	18.4	12.0	10.1	22.4
	どちらかといえば近い考えである	25.9	26.8	24.8	32.6	29.4	23.6	28.2	25.4	32.3	26.7	27.8	34.8	31.0
女性も外に出てどんどん働いた方がよい	近い考えである	20.4	21.3	23.4	17.8	35.3	20.7	22.1	17.9	23.7	19.2	23.3	27.5	10.3
	どちらかといえば近い考えである	22.9	33.2	41.4	34.2	20.6	27.0	24.8	40.4	25.8	33.1	36.1	27.5	34.5
無回答		8.2	3.1	0.0	1.5	2.9	9.2	6.8	2.8	0.5	2.6	0.8	0.0	1.7
能力のある女性は積極的に登用すべき	近い考えである	38.2	44.4	57.2	52.3	35.3	35.6	40.5	46.4	46.5	48.9	47.4	53.6	48.3
	どちらかといえば近い考えである	30.7	37.7	31.0	31.7	52.9	35.6	34.7	35.1	36.9	32.7	34.6	27.5	36.2
能力があっても女性の登用は制限すべき	近い考えである	5.9	4.2	6.2	4.6	2.9	6.9	5.4	3.4	5.6	2.6	5.3	8.7	10.3
	どちらかといえば近い考えである	14.4	10.5	5.5	10.8	5.9	9.8	12.6	12.5	9.1	12.8	11.3	10.1	3.4
無回答		10.8	3.2	0.0	0.6	2.9	12.1	6.8	2.5	2.0	3.0	1.5	0.0	1.7
多少自然を破壊しても開発を進めることは大切である	近い考えである	7.1	3.7	2.8	3.1	2.9	5.7	3.1	3.1	6.1	5.3	3.0	4.3	6.9
	どちらかといえば近い考えである	11.9	14.2	11.0	16.0	17.6	5.7	12.9	17.9	11.1	18.8	17.3	14.5	8.6
多少不便でも自然を守ることは大切である	近い考えである	37.8	41.6	49.7	40.0	38.2	42.0	42.5	40.8	40.9	38.3	37.6	42.0	36.2
	どちらかといえば近い考えである	34.3	37.6	36.6	40.0	41.2	35.6	35.0	35.4	41.4	35.3	41.4	39.1	46.6
無回答		8.9	2.9	0.0	0.9	0.0	10.9	6.5	2.8	0.5	2.3	0.8	0.0	1.7
新しいものは大いに取り入れて改革してほしい	近い考えである	14.9	17.1	10.3	15.4	17.6	13.2	13.6	15.4	15.2	17.7	15.8	17.4	15.5
	どちらかといえば近い考えである	22.4	32.6	37.2	42.8	35.3	19.5	28.2	32.6	36.9	37.2	41.4	37.7	32.8
いたずらに改革するよりも古いものの価値を大切にすることがよい	近い考えである	22.4	11.9	17.2	9.8	17.6	25.9	17.7	14.7	14.6	10.5	10.5	7.2	13.8
	どちらかといえば近い考えである	31.6	35.6	35.2	30.8	26.5	31.6	34.4	34.2	32.3	32.3	31.6	37.7	36.2
無回答		8.7	2.7	0.0	1.2	2.9	9.8	6.1	3.1	1.0	2.3	0.8	0.0	1.7
地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移した方がよい	近い考えである	33.4	35.6	35.9	42.2	20.6	32.8	32.7	36.4	33.8	37.2	42.1	42.0	46.6
	どちらかといえば近い考えである	39.6	49.4	55.9	50.2	64.7	39.1	43.9	50.2	51.5	51.1	46.6	53.6	46.6
政府が権限の多くを管理している方がよい	近い考えである	4.1	2.1	2.8	1.2	0.0	2.9	3.1	1.6	3.5	1.5	2.3	1.4	1.7
	どちらかといえば近い考えである	10.8	8.4	5.5	5.2	11.8	10.3	11.9	7.8	8.6	6.8	8.3	2.9	3.4
無回答		12.1	4.5	0.0	1.2	2.9	14.9	8.5	4.1	2.5	3.4	0.8	0.0	1.7